

覚悟して当面は現行のコンスターチまた外国産澱粉とのリンク制の改善か或いは財政負担による不足払いまたは農産物輸入関税の充当等大胆な政策に期待するということであろうか。

経団連の食品工業白書62年版によれば、同年における食品工業の海外現地生産、生産委託、逆輸入等に関する主なる企業の設立や契約件数は約34件、対象国は米国、カナダ、フランス、シンガポール、韓国、タイ、台湾、香港、中国等9カ国におよび、生産、輸入品目は果汁などの飲料を初めビスケット、小豆あん、あられ等37件に及んでる。

農産物の内外格差が拡大する中で食品工業もまた工鉱業と同様に原料、労働賃金、土地等の安い海外に進出して企業活動を行ない、状況によってはその果実を逆輸入するというケースが今後年々拡大するとの観測が有力である。

全国農協中央会では、このような食品産業の海外立地が進めばいずれは食品工業の空洞化を招き、必然的に国内農業の縮小につながることを懸念して、中長期を目途としてコメの生産費30%、酪農畜産物の生産費20~30%、麦の生産費50%を削減するという合理化方針を固め消費者やメーカーの納得する価格にて供給すると公表しているが、前述したように、わが国農業を改革して農産物価格を国際水準化することは、相当の歳月と金と物と英知を必要とするであろうが、日本の農業が生き残るか否かの瀬戸際である。

関係方面の折角の努力を切に期待するものである。

幸いにして、世界の農水畜産業はバイオテクノロジー、ハイテクノロジーの時代に入り

つつある。トマトやレタス等の水耕栽培、シイタケ、マッシュルーム等の工場栽培、魚類の養殖牧場等は実用の段階に入っている。また細胞融合や遺伝子組替えによる耐病虫性多収穫新品種の誕生、受精卵染色体の刺激や分割による雌雄の生み分け、中性化の達成等（1卵分割の双子牛、1卵分割の16頭牛、サケ、アユ等の雌雄生み分け、中性化等）今や科学の分野は無限に開花しつつある。わが国の高い技術水準と国情や国民性にマッチする、この未開の分野は吾々に限りない夢と現実を与えるであろう。

近い将来、農産物の自由化で苦悩したことが夢のように消え去り、食品加工企業が良質廉価な国産品を原料として逆に世界市場に進出する日の遠くないことを念願してやまないものである。

地方通信

鹿屋フェスティバルの

からいも料理とデザート群

鹿屋フェスティバルは、からいもの料理やデザートを開発して、新しい時代の故郷づくりに寄与したい、と日夜頑張っています。

からいもと大隅牛の名物料理で、当店が観光客を足どめすることができたなら、当店を拠点として、焼酎工場やイモ加工工場、あるいはイモ畑などをめぐる地元の観光コースをつくり、観光地の開発をめざそう、と企画しています。心からのご協力をお願い致します。



▶パンフの表紙